

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 声掛け変換表がとても勉強になり、普段の自分の子どもたちへの声掛けを振り返り反省しました。子どものやる気が出る声掛けを続けていきたいです。1日1回子どもの名前を呼ぶことは意識していたことだったので、これからも続けていこうと思います。なかなか子どもたちと信頼関係ができなくて悩むこともあるけれど、自分にできる支援をしていこうと思います。自分の掛ける言葉で子どもが笑顔になってくれるとうれしいので頑張ります。
- ◆ 放課後児童クラブにおける育成支援の基本的な考え方として、子どもの健全な育成を図ることを目的としており、自主性、社会性、創造性の向上と基本的な生活習慣の確立のために支援していくということを学ぶことができた。また、子どもたちにかかる言葉のワークでは、支援員の言葉が子どもの人生を左右する影響力があるということを常に頭の中に置き、対応していかななくてはならないと強く思った。
- ◆ 児童クラブにおける育成支援の基本は、子どもの発達過程を理解し、個人差を踏まえ、主体的な遊びや生活が可能となるよう健全育成を図ることであるということを学んだ。そのためには、物的環境を整えることと同様に適切な援助ができるよう支援員の人的環境も大事だと考えられる。保護者との連携も大切で、丁寧に対応していかなければならない。ご意見箱の設置もぜひやるべきだと思った。
- ◆ 私が勤めている学童クラブでは、やりたい遊びがないと暇そうにしている子や、いつも決まった人としか遊ばず、その友達が休んだときに誰と遊んだらいいかわからない子がたまにいる。こちらでも声掛けをしているが、なかなか興味をもってくれず、難しいところだ。毎回決まった子に固定されないよう、日頃から学年問わず席の配置をバラバラにしたり、他の子も混ぜてみんなで遊ぶきっかけづくりをするなど、案を出し合って創意工夫したいと思う。
- ◆ 保護者からのクレーム対応は、安心して学童クラブを利用してもらうためにも重要だと思う。保護者へ児童がしてしまった悪いことを伝える際は非常に気を遣うが、大体「本当にうちの子がそんなことを？」と驚かれる。近頃は両親に気を遣い、外で暴言を吐く等のストレス発散をする児童も少なくないように思う。働く両親を見て子どもながらにいろいろな自分を使い分けているのかもしれない。それも理解したうえで注意しつつ見守りたいと思った。